

各部署別事業案の発表！ 第二回実行委員会！

昨年12月19日、千葉朝鮮学校で学校創立75周年事業第二回実行委員会が開催された。実行委員会には総連本部委員長をはじめ、実行委員50名が参加した。委員会では、第一回実行委員会で採択された事業の目的、各部署活動方針を確認し、現在進行中の各部署プロジェクトの進行状況や今後、実行する具体的な事業案について討議された。



部署	目的	テーマ	実践中事業
学校魅力化部署	【1面を参照】		
財政部署	学校運営の正常化 新規ビジネス創出	・学校運営の分析と総括 ・既存の財政事業の分析と改善 ・若手の力で新しい突破口を！	学校財政の分析（過去含め） 学校一口運動の分析 新規ビジネス研究会（事業計画作成中）
イベント部署	創立80周年を目指した 各種イベントの実施 (連合同窓会事業)	年間を通じた各種イベントを通じて多くの人が学校を訪問する。	10月10日記念イベントの準備 朝青、青商会、学校、同窓会別イベント企画 (朝青：チャレンジ企画動画配信予定)
宣伝広報チーム	学校への関心を高め、 75周年事業内容を積極的に配信。	配信ツールの多様化 より多くの同胞、日本人に想いを届ける！	ナノハナ通信の発行 ロゴマーク ナノハナ貯金箱の制作 記念ポスター LINEスタンプの制作（3月完成）※予定 横断幕の作成（3月完成）

※現在、各部署で具体的なプロジェクトを討議しています。『討議』⇒『決定』⇒『実践』⇒『総括・再検討』の過程を通じてよりよい事業にしていきます。ご意見、ご要望については、いつでも実行委員会に連絡してください。

千葉朝鮮初中級学校
創立75周年記念事業ロゴマーク



【ロゴマークに込められたメッセージ】
「ハッキョ創立100周年を目指す！」という目標を込めて輪を10等分し、一個の区切りを“10年”と見立て、そのうち7個半を着色する事で『75周年』を表現。
※『100周年』を迎えた時、初めて輪が繋がるイメージ

学校創立75周年事業協議体プロジェクト

学校創立75周年記念式典・特別イベント 9月予定

その他、各イベント・事業を計画しています。決定次第、発表します！

学校創立75周年記念事業第3回実行委員会

日時：2021年2月27日（土） 場所：千葉朝鮮初中級学校 講堂
75周年記念事業発表（完成版・年間計画）

輝かそう！75周年！同胞サラン・未来サラン 千葉県本部ナノハナ8ヶ月運動決起集会

全同胞訪問活動 ナノハナ貯金箱 学校サラン活動

全同胞の総力で学校創立75周年を輝かそう！

【同胞参加型企画】

【写真使用目的】

千葉朝鮮学校の思い出写真募集

千葉学校の思い出写真を募集しています。実物の写真の場合、写真はデータ化し、すぐにお返しします。

75周年記念展示会

千葉朝鮮学校歴史集収録

実物の写真をお持ちの方は千葉学校教育会まで連絡してください！

特別イベント企画



実物



皆さんの力を合わせて、75周年をお祝いしよう！

デザイン(表面) ※3パターン



10月10日（日曜）に予定されている『75周年記念イベント』に、

このナノハナ貯金箱を持参して皆でお祝いしましょう！！

集めた貯金箱の募金額は、当日イベント内で集計します。

また、貯金箱を持参してくれた方には、豪華記念品を贈呈！！

各支部・団体で

配布中

千葉朝鮮初中級学校物語 (2)

「朝連船橋初等学園」



船橋朝連初等学院全校生 (1949年)

1946年10月、船橋で「朝連船橋初等学園」が開校された。朝連支部の呼びかけに多くの同胞たちが学校建設に立ち上がった。15人の建設委員を中心に46年10月に船橋市湊町2丁目「朝連船橋初等学園」校舎の竣工式が行われた。最大138名の学生たちが学んでいた。当時、船橋の同胞たちは、失業者・半失業者も多く、生活に苦しんでいた。だが、新校舎建設に情熱を注ぎ、ある同胞は家財道具までも売り払って学校建設基金にあてた。同胞たちは、どんなに苦しくても未来への希望を胸膨らませ新校舎を竣工させた。また、1949年5月にも新校舎を建設している。49年9月8日の朝連解散、10月19日の「朝鮮学校強制閉鎖令」施行に当時の教員、父兄たちは船橋市長と交渉を行ったが、市警察は交渉団の内男性5名女性4名を「不潔去罪」で検挙。乳飲み子1人もオモムツと留置所に入れられた。今では考えられない非人道的な弾圧に同胞たちは戦った。警察署前に座り込み、地域日本人の人も駆けつけ抗議の声を高まると、警察は市川や千葉の武装警官まで動員し弾圧。しかし、同胞たちはひるまず闘い、3日後全員の釈放を勝ち取った。その後、民族教育は「民族学校」という形で継続された。46年から8年間勤めた金声煥さんは生前、「日本小学校の器具置き場と放課後の教室を借りて子どもたちを教えた。月給は全部学父兄がくれた。朝鮮人学校閉鎖令の時は同胞たちみんなと闘った」と語っている。船橋朝鮮学校校舎は、朝鮮戦争の試練期に修理補修され、53年12月から56年3月まで朝鮮中央師範専門学校として活用された。中央師範専門学校は、全国から集まった青年学生たちを各地の朝鮮学校教師や活動家に育て、朝鮮総連結成前後と直後の在日朝鮮人運動の歴史の転換に貴い貢献をした。1955年5月25日、在日朝鮮人総連合会が結成されることで民族教育は金日成主席が提示した路線転換方針にそって、新しい民主主義民族教育の道を歩み始める。56年4月からは、船橋朝鮮初級学校として運営され、50年代後半には学生数は急増した。当時、千葉、船橋の両校とも設備の劣悪さは深刻だった。「近隣の日本学校の生徒からは『朝鮮学校、ぼろ学校』と罵られ、蔑まれていましたね。当時、船橋の学校で教員を務めていた李權愛先生は話している。「窓ガラスは割れていて、黒板も墨で黒く塗って使っていました。テストをしようにも紙がない、授業をしようにもチョークがない。そうすると教員たちがポケットの中のお金をかき集めて文房具店に買って行って、何とかしのいでいました。57年に祖国から教育援助費が送られてきて、初めて月給をもらえたんです。当時、韓徳鉄総連中央議長は「有史以来のこと」と「教育費と奨学金は：教育活動の力の源泉となり、生命水となるだろう」と書いています。今でもよく使われる「生命水」はこの時の言葉に由来している。当時、共和国は朝鮮戦争に勝利したが、すべてのものが破壊され、平壤の多くの子供たちも栄養失調で下痢していた。それでも異国の地に住む在日朝鮮児童のために送ってきた教育援助費は正に人類史に刻まれる有史以来の出来事であった。その後、船橋朝鮮初級学校は1963年に落成した検見川の千葉朝鮮初中級学校に移転して歴史の幕を閉じた。千葉初級学校も含め、草創期の千葉民族教育は、紆余曲折の中でも、祖国の深い愛と同胞たちの熱い想いと惜しみない愛国愛族運動で誕生し、発展してきた時代であった。

昨年(2020年)はまさに「新型コロナ」の年であった。児童・生徒や教員の安全だけでなく、学校財政に大きく影を落とす。経験したことのない不安と困難の中、なんとか学校を守るために多くの方たちが立ち上がった。当初、教育会が減収予測を立てたところ、数百万円の減収が見込まれた。ただでさえ慢性的な財政難の中で予期しない財政赤字は、学校の「危機」と言っても過言ではなかった。しかし、その危機は多くの人たちの暖かい支援により回避できた。「コロナ基金」として自らも苦しい中、数十万円を持ってきた同胞や日本の方たち、マスクや消毒液を学校に持ってきた方たち、バザーが開催できない中、みんなで知恵を絞って、目標以上の利益を寄付したオモムツも、一切の後ろ向き発言もせず前年と同じゴルフ大会でチャリティ金を寄付したアボジ会、青商会をはじめ、物心両面で学校を支えた名もなき英雄たち。間違いない千葉民族教育の歴史にその功績は刻まれた。そして大きな特徴は、諦めることのない思いとともに学校を支える事業で起きた「イノベーション」という。既存の方法が通用しない状況の中で、ダメだからできない、ただ耐える自己犠牲だけでなく、一人ひとりが「知恵」を絞り、試行錯誤をし、各団体が一致団結する中で自然とイノベーションが起こる。言葉ではなく、実践を通じて今までに見たことのない結果を出した。今、思うことは「我々は新型コロナに勝った！」(金)

編集後記